同 No. 8〜9 号掲載予定記事の紹介.

気象研究ノート…1997年度の発行計画（189号以降）の紹介.

189号「1993/1994年夏の異常気象」まもなく印刷校正にかかる.

教育と普及…夏季大学の受講者応募状況の報告

電子情報…気象学会ホームページ・BBS 等のアクセス状況

・BBS（電子掲示板）の廃止について

学会事務局のパソコンが7月28日に更新されると，事務局から Internet にアクセスができるようになり，ホームページの「会員の広場」等を通じて会員と連絡を取ることができるようになるので，BBS を継続する必要性はなくなる.

近い将来廃止することを会員に対し広報する.

・気象学会ホームページで英文による学会紹介文の作成

現在標記の英文を作成しており，外国向けに学会活動を紹介できるように準備中.

3．会員加入状況

新入会員23名を承認，退会員 4 名の報告．会員数 4,664名（内，通常会員4,150名）.

4．山本・正野論文賞の1997年度受賞者の決定

全理事による投票の結果，下記に決定

植田宏昭　筑波大学地球科学研究科

小林文明　防衛大学校地球科学科.

5．堀内基金奨励賞の1997年度受賞者の決定

全理事による投票の結果，下記に決定

川村　宏　東北大学理学部大気海洋変動観測研究センター

神沢　博　国立環境研究所.

6．その他

・気象学会による技術研修等の検討

現在，国の資格認定制度として気象予報士の導入以来数年を経て，合格者数が増加すると共にその技術水準が幅広くなっている．このため，より高い技術を目指したいとか，もう少し基礎的な技能を幅広く身につけたいなどのニーズが発生し，それに合わせた学習制度や認定制度を求める声がある．気象予報士制度とどのように整合させるのが適当か等について，今後検討していく必要があるとの問題が提起された.

支部だより

第 4 回中部支部公開気象講座の報告

日本気象学会中部支部では1997年 8 月29日(金)，名古屋市中小企業振興会館において第 4 回公開気象講座「生まれ変わった気象情報—『予報の原理』から『新しい気象情報』ができるまで—」を開催した.

プログラムは次のとおりである.

「天気は何故予報できるか」

田中　浩（名古屋大学大気水圏科学研究所）

「予報ができるまでのプロセス」

坂上公平（名古屋地方気象台）

「『予報の自由化』により気象情報がどのように変わったか」

古山享嗣（財団法人日本気象協会）

今回の講座には，会場が満員となる約150名の参加があり，年齢別では40代を中心に10代から70代まで幅広い参加があった．また，各講演の後には活発な質疑応答がなされ，一般の方の関心の高さを感じることができた.

（中部支部）